

科目名	密教学特殊講義D							学期	前期
副題	空海書学 A-1				授業方法	講義	担当者	野田悟	
ナンバリング	M3-06-218	実務経験の有無	有	関連DP	2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本の漢字の伝来において、写経は非常に大きな意味合いを占める。また日本の書聖空海思想には、密教を含む東洋思想が原点である。この東洋思想の根幹を占めるのが、表意文字である漢字であることを理解し、唐代楷書を通して理論と実践の両面から焦点を当てる。・授業中に筆を執って書くだけでは絶対に上達しない。自宅でも筆を持つよう心掛けてほしい。

授業の到達目標

漢字に興味を持ち、毛筆による古典臨書を中心とした歴史認識と作品制作。

授業計画

1. ガイダンス並びに文房四宝概説
2. 臨：顔真卿「多寶塔碑」① 理：提筆と按筆
3. 臨：顔真卿「多寶塔碑」② 理：初唐の四大家と顔真卿
4. 臨：顔真卿「多寶塔碑」③ 理：顔真卿の書と時代
5. 臨：顔真卿「多寶塔碑」④ 理：書と道教の周辺
6. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」① 理：褚遂良とその時代
7. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」② 理：法帖とコピーの違い
8. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」③ 理：王羲之からの流れ
9. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」④ 理：「雁塔聖教序」の結構と章法
10. 顔法と褚法の比較研究
11. 自選の法帖を徹底臨書①
12. 自選の法帖を徹底臨書②
13. 写経① 理：日中の心経比較
14. 写経② 理：異体字を考える
15. 写経③ 理：願文の書き方

準備学習(予習・復習)・時間

毎時、課題の作品を仕上げてくる。(180分)

テキスト

・中国法書選 40 顔真卿「多寶塔碑」、34 褚遂良「雁塔聖教序」: 二玄社・書道字典を持っている方が望ましい。・写経セット [LA26-59] を購入の事。*その他、必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①『説文解字』(中華書局等) ②『聾聵指帰』、『篆隸万象名義』等(高野山大学蔵) ③『新書源』(二玄社)等々

学生に対する評価

レポート(50%)、授業参加の積極性(50%)・基本的に作品による評価(素点)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 筆順を正しく理解する。
- (B) 旧漢字を正しく理解し、細かい部分まで理解した臨摹ができる。
- (A) 臨摹を基にしたレベルの高い写経の創作ができる。
- (S) 尚古思想での願文を含めた、レベルの高い写経の創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

・使用する文房四宝はガイダンス時に説明する。・書道実技の講座時は、毎回の課題が課される。・授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。・基本、本学学部生、大学院生のみ受講可。卒業生は、許可した者のみ可とする。・2回目の受講生は、希望を相談の上、別課題を出し指導する。・夏休みの課題として、写経一巻を課す。創作作品は、2月の学外書道展に出品する予定。(表装の費用は個人で負担)

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校書道教員及び芸術系大学院講師として、勤務経験を持つ教員がその経験を活かして「書とは何か？」の原点に立ち返り講じ、実技指導する。